

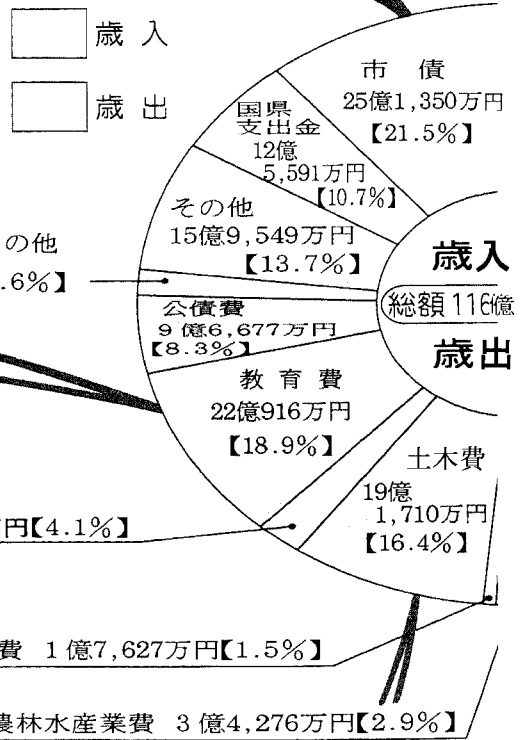
21世紀を目指し 『11まち』

★市債残高の状況

市税・地方交付税等歳入が伸び悩む中、文化ホール、優良賃貸住宅建設などの大型事業や国の景気浮揚策に沿った普通建設単独事業の伸びを確保するためには、どうしても借金（市債）に頼らざるを得ないのが実情です。しかし、一方では市債を借り入れることによって財政負担を均衡化し、後年度にその施設等の恩恵を受けるであろう世代に対しても応分の負担をお願いするほうが、より公平である場合もあります。大切なことは返済金（元利償還金）が多額になり過ぎその他の経費を圧迫するといった事態を避けることにあります。そのため起債制限比率が設けられ一五%を超えないよう国県から財政指導がなされています。本市においては、四年度末決算時で一二%弱であり若干の余裕がありますが、前述の大型事業が目白押しですので指導ライン近くまで上昇するものと予想されます。今後とも金利や交付税算入など有利な起債に限定し、繰上償還等適切に対処し健全財政の維持に努めて行きます。

★市立病院『眼科』設置

五科目目の診療科目として『眼科』を設置し、白内障、緑内障等の手術、診療を開始します。



★教科書副読本無償化

小・中学校の教科書副読本を無償化し、父母負担の軽減を図りました。

★生涯学習事業の充実

市民の生涯学習意欲の高まりに呼応して教育委員会内の機構改革を行い生涯学習係を新設するとともに、文教都市都留市の生涯学習の在り方についてパネルディスカッションを行うなどその体制整備を進めます。また、文化講演会等の充実を図り、市民の多様な学習ニーズに対応して行きます。

★都留文科大施設整備

文教都市都留市の顔である都留文科大の施設整備の一環として二カ年継続で第三講義棟の建設を行います。また、現在の文学専攻科を大学院に昇格するための準備を進めています。

★救急救命士の養成

五年度予算において、その車内での救命措置を行うことができる高規格救急自動車を購入し、六年度より運用を開始するに当たり、その措置を行う救急救命士を順次養成して行きます。既に国の定める救急救命士の三課程のうち二課程を修了した消防職員八名が救命措置一二項目のうち九項目につき実施が可能となっています。将来的には、救急救命士が常時配備される体制を目指し、鋭意努力していきます。

★住宅政策の充実

住宅政策の中でも特に公営住宅の供給については近年重点的に予算配分してきましたが、本年度は老朽公営住宅の建て替えとして田原団地二号棟の建設を進めて行きます。また、中堅勤労者向けの優良賃貸住宅として井倉団地一号楼の建設も同時に進めて行きます。

★地場産業の発展対策

農業については、都留市の気候風土に合った特産物の栽培振興を図ります。また、盛里大平地区において、リニア実験線工事残土を利用した土地改良事業を実施し優良農地の整備を図ります。林業については、広域圏的取り組みとして郡内林業振興のため県下最大規模の木材基地を大月市初狩地内に建設するための負担金を計上しました。

また、商店街の活性化対策として街路灯、シンボルタワー設置費の助成を行います。

★『宝の山ふれあいの里』整備

いきものふれあいの里の整備に続き実施しました宝緑地広場の完成に伴い、グリーンロッジも含め一体的な管理運営を図り、観光施設として、また青少年の自然教育施設として幅広く活用します。